

# 稲作情報

Vol.2 平成25年6月12日

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部

問い合わせ先: 本吉農業改良普及センター

TEL: 0226-29-6044

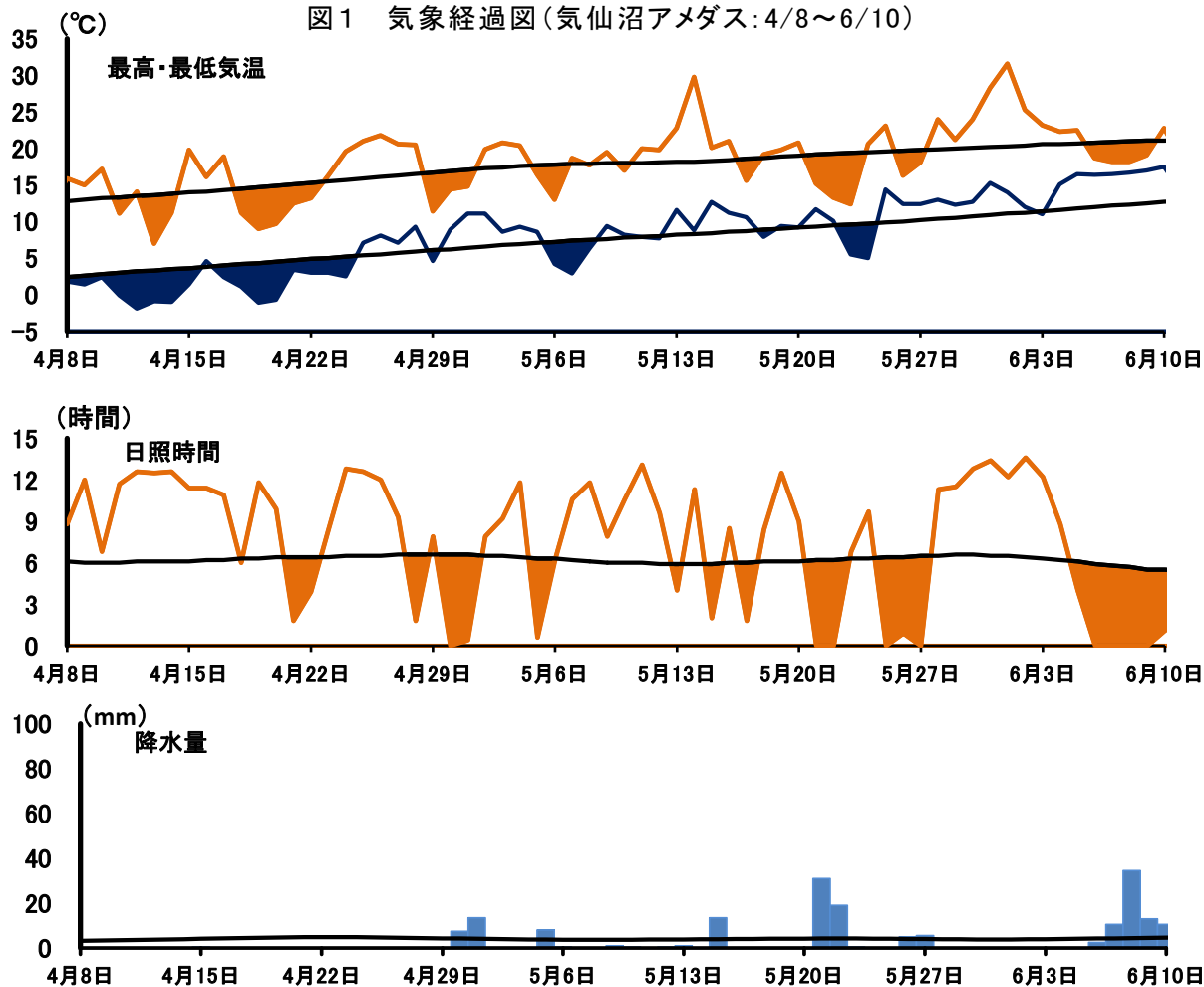
ホームページ: <http://www.pref.miyagi.jp/my-nokai/>



生育はほ場によってばらつきあり

**気象経過** 6月5日梅雨入り。6月1半旬は高温多照，2半旬は少照多雨。

図1 気象経過図(気仙沼アメダス: 4/8~6/10)



6月1・2半旬ともに平均気温は、平年より高く経過しました。

日照時間は、6月1半旬は平年を大きく上回りましたが、2半旬は平年を大きく下回りました。また、降水量は、6月1半旬に降水が全くないなど平年を大きく下回りましたが、2半旬は平年を大きく上回り、2半旬は少照多雨で経過しました。

表1 半旬別気象表(気仙沼アメダス)

	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	H26	平年	差	H26	平年	差	H26	平年	差	H26	平年	比	H26	平年	比
5月3半旬	15.9	12.9	3.0	22.5	18.2	4.3	9.7	8.2	1.5	40.0	29.6	135%	15.0	19.2	78%
5月4半旬	13.9	13.5	0.4	19.3	18.7	0.6	9.7	8.9	0.8	40.2	30.3	133%	0.0	20.3	0%
5月5半旬	13.5	14.2	-0.7	16.9	19.4	-2.5	9.3	9.6	-0.3	16.5	31.4	53%	50.5	20.8	243%
5月6半旬	17.1	14.9	2.2	22.0	20.0	2.0	13.0	10.5	2.5	49.9	39.1	128%	10.5	23.4	45%
6月1半旬	18.8	15.7	3.1	25.0	20.5	4.5	13.7	11.4	2.3	50.8	31.5	161%	0.0	19.7	0%
6月2半旬	17.7	16.3	1.4	19.4	21.0	-1.6	16.8	12.3	4.5	1.1	28.4	4%	71.0	22.0	323%

## 生育経過 生育はほ場によってばらつきあり

気仙沼市の生育調査ほ(ひとめぼれ)では、草丈はやや小さく(平年比 91%)、茎数はやや少なく(平年比 85%)、葉数はやや多く(平年差 0.4 枚)なっています。

南三陸町の生育調査ほ(ササニシキ)では、草丈はやや長く(平年比 110%)、茎数は平年並(平年比 93%)、葉数は少なめ(平年差-0.6 枚)となっています。

苗質の良否、活着時の低温遭遇、または海からの冷風等の影響もあり、ほ場によって生育のばらつきが大きくなっています。

表2 生育調査結果

調査地点名 品種名 (田植日)		6月2日調査			6月10日調査			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)
生育調査ほ	平成26年	19.2	147	4.7	21.5	219.8	6.4	39.2
	前年	19.3	129	4.1	24.0	262	5.8	36.0
	平年	18.7	119	4.5	23.7	258	6.0	36.5
気仙沼市本吉 ひとめぼれ (5月12日)	前年比(差)	99%	114%	0.6	90%	84%	0.6	109
	平年比(差)	103%	123%	0.2	91%	85%	0.4	107
生育調査ほ	平成26年	20.8	91	4.4	28.7	191	5.7	34.5
	前年	20.0	107	4.6	27.0	286	6.0	35.5
	平年	18.8	104	4.7	26.2	204	6.3	32.0
南三陸町入谷 ササニシキ (5月15日)	前年比(差)	104%	85%	-0.2	106%	67%	-0.3	97
	平年比(差)	111%	88%	-0.3	110%	93%	-0.6	108

注：平年値は過去5カ年(平21～25年)の平均値

## 今後の技術対策

### ◎水管理

- 分げつの発生が少ないほ場では、浅水(2～3cm)管理として水温の上昇に努め、分げつの発生を促進させましょう。
- 低温や強風が予想される場合は、5～6cmの深水にしましょう。
- 水温の上昇に伴い土壌中の有機物の分解が進み、土壌からガスが発生する場合があります。ガスの発生が多いと根からの養分吸収を阻害するため、一時的に落水したり間断かん水を行い、土壌中に酸素を供給しましょう。

### ◎雑草防除

- 雑草が残っている場合は、中・後期剤を散布し防除しましょう。散布の際は、農薬ラベルに記載された使用時期および使用方法に注意し、遅れないように散布してください。
- 除草剤の種類によっては、雑草に全く効果がみられない場合があります。雑草の種類や草丈葉齢を確認し、適切な薬剤を選びましょう。

(例)ノビエが残ってしまった場合、除草剤の選択を誤ると……

バサグラン液剤 バサグラン粒剤	→ ×	ノビエには全く効きません (広葉雑草は枯れます)
クリンチャーEW クリンチャー1キロ粒剤 クリンチャージャンボ	→ ○	ノビエは枯れます (広葉雑草には全く効きません)

「雑草の種類がわからない、どの除草剤を散布すれば良いのかわからない」といった場合には、散布する前に普及センターまでご相談ください。

## ◎病害虫防除

### 《葉いもち》

病害虫防除所の発生予察情報(6月9日現在)によると、葉いもちの発生時期は平年並み(7月1半旬)で、発生量も平年並みと予察されています。

- (イ) 残苗がまだ残っているほ場がみられます。残苗は、本田でのいもち病の発生源になるので速やかに処分してください。
  - (ロ) 箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、各種水面施用剤をそれぞれの防除適期に散布してください(田植時期が遅い場合でも防除適期に散布してください)。
  - (ハ) 箱施用剤による予防防除を行った場合でも、発病がみられたときには茎葉散布剤で速やかに防除してください。
- (ニ) 葉いもちは、穂いもちの伝染源となります。病勢が進展してからの防除では十分な効果が期待できないので、水田をこまめに見回り、早期発見・早期防除に努めてください。

#### 防除上の注意

- 粒剤は、水深を3cm以上にして散布し、各々の薬剤の湛水期間を必ず守ってください。
- パック剤は、水深を3～5cm程度にして均等に投げ込んでください。藻類や浮草の発生が多い場合は、薬剤の拡散が阻害されるので、粒剤等で対応してください。
- 茎葉散布剤を使用する場合は、耐性菌の出現や増加を避けるため、同一系統薬剤の連続使用や多数回散布は行わないでください。
- 薬剤を散布する際は、周辺へ飛散しないよう注意して下さい。



**「葉いもち防除は、予防防除と発病の早期発見が大事です」**

### 《イネドロオイムシ》

イネドロオイムシの発生時期(幼虫加害最盛期)は、やや早く(6月5半旬)、発生量は平年並と予察されています。

- (イ) 6月の気温が低温で経過すると成虫の産卵期間が長引き、幼虫の加害期間も長くなります。今後の気象経過に注意し、発生が長引く場合は追加防除を実施してください。

#### 防除上の注意

- カーバメート系薬剤や有機リン系薬剤に抵抗性を示す個体群が確認されているため、効果が十分でない場合は別系統の薬剤を使用してください。
- 「蚕注意マーク」等の表示がある薬剤は、事前に周辺の養蚕の状況等に注意を払い、残効性等の特性を考慮してから使用(時期)を決めてください。

### 《斑点米カメムシ類》

- (イ) 畦畔や農道、雑草地、休耕田等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の重要な増殖源となります。計画的に草刈りを行い、カメムシ類の増殖を抑えてください。

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、平成26年6月2日～8月1日の2ヶ月間を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。

農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。